

弘教寺

つづじだより



第19号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話0二七0(七四)0五七三

### 東日本大震災に思う

弘教寺住職 中山英昭

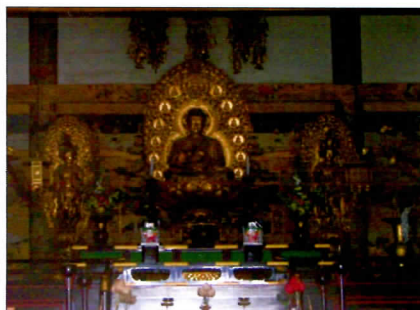
東日本大震災は、未曾有の大被害を東北・関東地域にもたらした。六月末日で死者・行方不明者の数は、二万二千八百人余に達している。人的にも、物的にも復興ということが容易でないことは言うまでもないが、東北の人達の精神的な強さが、復興を可能にするように思えてならない。その根底にあるものは、「他を思う心（悲の心）」である。いたわり合い、支え合う心が、東北の人達に強く見られるからである。

気仙沼であったと思うが、中国人の報道スタッフが、フカヒレ工場の様子取材に来た。三月の取材で、工場の社長は、家族を、家を、工場を失い、失意のどん底であったという。その後、五月に再び取材に訪れると、そこには、自らも避難所暮らしの中で避難所の人達を率先して世話をしている社長の姿があった。その前向きな行動を、中国人スタッフは驚きをもって取材していた。テレビに映し出された一場面である。かつて東北地方では、厳しい冬の寒さだけ

世界遺産に登録された中尊寺



金色堂全景



堂内の阿弥陀三尊像

写真は中尊寺ホームページより

### 〈義援金募集中〉

4月・6月と20万円ずつ  
上毛新聞社へ届けさせて  
いただきました。ご支援  
感謝を申し上げます（住職）

でなく、冷害凶作による飢饉などによって、多くの犠牲者を出した。その繰り返しの歴史の中で、支え合い、弱いものにも目を向けていくココロが培（つちか）われたものと思う。「布施柿」という話を聞いたことがある。東北の寒さ厳しい地では、柿を収穫する時、すべてを取らないと言う。鳥や小動物が冬を越えられるように、一部を残すそうである。「布施柿」の名の由来である。一人だけでは、生きていけないことを、肌で感じ取ってきたのではないだろうか。仏教で言う「悲」の心である。「悲」の心を「同苦」という。向かい合う立場ではなく、同じ側に立って、ともに悲しみ、ともに苦しみ分かち合う同感の心である。傍らに寄り添う仏さまの心（大悲）とも通じる。

世界中そして全国から、義援金が寄せられ、ボランティアの人達が駆けつけてくれた。支援助物資もたくさん寄せられている。涙とともに東北の人達から、感謝の言葉があふれでている。世界の、日本国中の人達の東北に向ける動きや思いを見聞きする時、人間すてたものでないと思った。有り難いことである。六月二十七日の新聞で、世界遺産に、小笠原諸島の自然遺産とともに、平泉中尊寺周辺が、文化遺産として登録されたことが紹介された。東北の人達にとって久しぶりの明るい話題となった。中尊寺の山田俊和貫首は、会見で「被災された方々に浄土の風が吹き、希望の光となれるようにさらに努力したい。」と語っておられる。復興までは、遠く長い苦難の道のりであると思うが、多くの人々の支援と励ましの心によって必ずや成し遂げられると思う。阿弥陀さまの照護のもと、一日も早い復興を願うことです。



## 群馬組連続研修会について

私が住職を拝命した年、昭和五十七年に、第一期の群馬組連続研修会は、実施されていきました。三十年前のことです。

戦後の高度経済成長の中、日本人の多くは、心から物へ価値観を移して行きました。仏法を聞くことを根幹としている真宗教団にとって、ゆゆしき状況となりました。基幹運動の一貫として、昭和四十年代以降、全国の各組の単位での連続研修会が開催されるようになりました。各組を単位として連続して研修していただくことから、「組連研」「連研」と呼ばれています。連研の会員は、二年間、十二回の研修を受講し、終了した後、本山での中央教修(四日間)を終えることで、門徒推進員の資格を取得できます。弘教寺でも、現在一名の方が資格を得て、群馬組や弘教寺の教化活動に積極的に関わって下さっています。資格を得ていない連研を終えられた方々も、寺の活動を理解し、積極的に関わって下さるようになって、今では、寺の人的財産になっております。

浄土真宗のみ教えを、仏教の教えを学んでみたいと思われる方、貴重な体験の場として、どなたにも開かれておりますので、ぜひ、組連研の会員となってみては、いかがでしょうか。希望される方は、弘教寺までお問い合わせ下さい。

(住職)

## 連研宿泊研修会に参加

◆群馬組連続研修会、第六期の五回目は、六月四・五日宿泊研修となり、伊香保温泉の千明仁泉亭にて住職方八名、門徒推進委員四名、各寺院の門徒三十二名、計四十四名で行われました。午後二時より開会、組長の挨拶で始まり研修に入りました。一部では正信偈・和讃の唱え方、息継ぎの仕方などを指導いただきました。二部では大遠忌法要参拝時の宗祖讃仰作法が指導され大変に難しい内容でしたが、何回も聞くことにより少しずつ解ってきました。時間が過ぎるのも早く一部、二部とも夢中の間に終わり、七時より懇親会となり和気藹々(わきあいあい)と賑やかな歓談となりました。翌朝、六時半お勤め(おあさじ)があり、当寺の橋本さんが感話を述べられて閉会となり、朝食後に解散となりました。大変勉強になりました。これから



弘教寺の参加の皆さん

もいろいろと参加をさせていただきたいと思っております。(佐藤よ)

◆お寺のことはゼロから出発の私を導いて下さる住職方、諸先輩の方と共に六月四・五日の研修に参加致しました。千明仁泉亭で中央に阿彌陀如来様、略式の仏壇が整えられ、覚法寺ご住職のお勤めの指導が始まり、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要でお勤めをする「宗祖讃仰作法」

の節回し等を教えていただきました。蓮照寺ご住職からのサプライズで、浄土真宗クイズが出され三〇問中一問しか間違えなかった人達にプレゼントがありました。



懇親会の風景

楽しい夕食での集いや自己紹介で親睦を深め、お風呂でのコミュニケーションでも修学旅行を思わせる久し振りの興奮でした。山の朝澄んだ空での鳥たちのさえずりも美しく、お朝事の正信偈にも一層力が入りました。無事に研修を終え、心のこもった朝食を美味しくいただき、宿周辺を気持よく散策もできました。貴重な体験をさせていただき有難うございました。(小林か)

## 仏教豆知識(10)・四十九日について

故人の命日から数えて「四十九日」を中陰といい、この期間の終わりに満中陰の法事をします。この中陰は、古代のインドでの人達の「人間が死んだら四十九日後、どこかの世界に生まれる」という考えを背景にしたものです。故人のために、七日毎に供養するのが中陰だったのです。この思想が我国に伝わり、中陰の間、読経その他の善根を積むことが行われてきました。浄土真宗では阿彌陀如来のご本願のお救いにより命終わると同時に浄土に往生するといふ教えですので、追善や追福の供養ではなく、故人の遺徳を偲び、人生の意義について考える良き仏縁として、お念仏のみ教えを聴聞し、慎みの期間とします。(吉田た・釋願船)



## 群馬組仏婦連盟総会・研修会

浄土真宗本願寺派群馬組は十ヶ寺あります。その内五ヶ寺が、仏教婦人会の結成をしております。毎年、その五ヶ寺で順番に「組仏婦総会・研修会」が行われ、今年は十五回目となりました。今年度は弘教寺が会処(えしよ)となり、六月二十一日に開かれました。

当日は組内各寺より総勢九十八名の参加となり、弘教寺は組の最多数、二十四名の方々が出席下さいました。弘教寺の仏婦会長の野水孝子さんが総合同会を務めました。

〔開会式〕は「讚仏偈」から始まり、組仏婦連盟会長挨拶、組長艸香雄道先生の挨拶と続きました。

〔総会〕は各運営委員さんから前年度活動報告、収支決算報告、監査報告があり、それぞれ承認されました。今年度活動計画も承認され、教区委員さんから教区活動報告と世界仏婦大会の報告がありました。続いてダーナについての説明と募金のお願いをいたしました。

〔研修会〕は、中央仏教学院前院長の北畠晃融先生が「淤泥の華(おでいのはな)」という講題で仏教と教育についてお話し下さり、「淤泥の華」とは、如来様のおはたらきであるというご法話をいただきました。

〔閉会式〕で、ダーナ募金の集計が発表され、九万四千九百九十二円となりました。ご協力有難う御座いました。募金は、東日本大震災義援金として教区災害対策委員会に届けられました。最後に参加者全員で「恩徳讚」を唱和し幕

を閉じました。

弘教寺住職・坊守をはじめ、各寺坊守、運営委員、教区委員の各皆さま、弘教寺仏婦役員、弘教寺仏壮の方々には、早くから準備等でご協力いただきました。盛会の内に無事閉会となりましたこと、感謝申し上げます。有難うございました。(瀬古の・釋安徳)

組仏婦総会・研修会が九十余名の出席者を迎えて開催されました。研修会では中央仏教学院前院長の北畠晃融師の「淤泥の華」の法話でした。

東日本大震災で世の中があまりにも変わりすぎました。如来様のお力で、きれいな蓮の花を咲かせて欲しいものです。先生のお話はいろいろと心打たれました。ある少年が祖父を亡くして命の尊さを知る。親子の問題に悩み「禅の教え」で親が子の立場、子が親の立場で考える親子の愛情のお話。「我帰る所なく、孤独にして同伴なし」のお言葉に感銘いたしました。



風景 研修会 総会

悲しみ苦しみを一緒になってくれる人がいない世の中、寂しいですね。そんな世の中でなく、悲しみ、苦しみの苦悩を喜びに変え、共に歩んでくれる仏婦の仲間を作りましょう。(野水た)

### 教区仏教壮年会連盟総会・大会に参加

五月二十九日、本願寺築地別院本堂において、平成二十三年度の教区仏壯連盟の総会及び大会が開催され、弘教寺からは六名が参加しました。

午前の総会では、前年度の各報告議案・今年度の各案件が承認され。午後の大会は、弘教寺の貝塚俊市(群馬組理事)さんによる勤行(讚仏偈)ではじまり、記念法話は

一、松本智量先生の「自らの言葉で語ろう」  
二、天岸淨圓先生の「み教えを聞く」  
の二つのお話を聞くことができました。

人からの話しは内容を正しく理解し、また、人の問いには自分の考えをきちんと伝えることの大事さ、難しさを改めて感じました。

現在、築地別院本堂は改修中で、今までと違った雰囲気の中かで有意義な一日でありました。(中野と)

### 伊部さん二度目の優勝!

第十三回「弘教寺ゴルフ会」春のコンペが、五月十九日にサンコー72カントリークラブで開催されました。今回は五組十八名が参加し爽やかな新緑と澄み切った青空のもと、日頃の腕前を競い合うとともに親睦を深めながらプレーを楽しみました。栄えある優勝者は、毎回好成績を収めている伊部芳夫さんが、二度目の優勝杯を手に入れました。

また、六月十七日には第三十回群真会親睦ゴルフコンペが赤城ゴルフ倶楽部で開催されました。弘教寺からは十名、総勢二十九名が参加し、雨に打たれながらも奮闘し、貝塚君雄さんが優勝杯を手に入れました。



優勝者の伊部さん

(栗原ま)



六月・子どもの集い\*子どもたちの心に\*

受付前に「アマダさま」にお参りする時、二人の子が義援金箱にお小遣いを入れてくれました。案内に何も書かなかったけれど、前回の呼びかけを心に留めておいてくれたようです。住職のお話は「悲のころ」。震災に関連して思いやりや共に手を携えて生きることについてでした。熱心にご聴聞する子ども達と若い父母の姿が印象的でした。

遊びは缶ぼつくりの二回目。準備も手際もよくて作るのに時間はかからず、たっぷり遊びました。缶ぼつくりを「はい」での陣取りゲームは、大人も子どもも一緒に楽しんでみました。おにぎり作りも好評で、おじいちゃんやお父さんの分もと、大きなおにぎりを作って持ち帰るほほえましい場面もありました。子どもたちの心に大切にしたい灯りが少しづつともつていくようです。(坊守)



缶ぼつくりを作って遊び、おにぎりを作って食べました。缶ぼつくりゲームは上手に早くてもジャンケンで負ければため、のろくてもジャンケンに勝てばよいので楽しかったです。おにぎりは、うめとしゃけで三角と丸いものをスタンプのおばさんに手伝ってもらって作りました。(小五 松島は)

次回は八月二十日夏の子どもの集いです。紙芝居「親鸞聖人」、駄菓子屋さん、遊びの広場で楽しみます。沢山の子どもたち集まれ!

◆この人◆ 柴崎一弘さん・伊勢崎市

「仏教学んでます」

伊勢崎市境(旧元町)に住む柴崎さんは他宗派のご出身ですが、「仏教を学びたい」がご縁で弘教寺に通って来ています。

「近所の弘教寺世話人・杉本さんの勧めで、昨年五月より壮年会で学んでいます。九月からは本山の中央仏教学院の通信教育(三年制)を受講し始め、さらに群馬組で連続研修会(年六回二ヶ年半)にも積極的に参加し、学びを深めています。」

「若い頃から心とは何ぞや」を探し求めているいろいろの本を読んだ結果、仏教に行きつき、まず浄土真宗を学ぶことから始めたそうです。「仏教にもいろいろの宗派があり、ご本尊も阿弥陀如来、釈迦如来、大日如来、薬師如来ありで、教えも様々ですが、それぞれを評価や批判をするのでなく、自分に合った生き方はどれかを見極めたい。」と、技術屋さんらしい生真面目さで語ってくれました。

柴崎さんのように仏教や真宗のことを学



ご本尊の阿弥陀様の前で

べますので、どなたでも遠慮なく弘教寺の門をたたいてください。(玉田 た)

※編集後記※

一九一〇年に電灯線で動くモータが実用化された。以来「ものづくり」技術は飛躍的に発達し、今日は電気の生活が当たり前。輪番停電は、マンガ・ドラえもんで「のび太君がドラえもんのいないのと同じ生活になった?」「してくれて、当たり前」になれると、自分の欲が強くなり、相手を気遣う思いが薄れていくことに気づかされた。これを機に、相手を思う心・有り難さを大切にして、何が出来るかの生活に勤めたいものです。(橋本ま)

◆行事予定◆ (平成23年 8月~平成23年 11月)

| 月別  | 弘教寺の行事予定 |                | 教区・群馬組の行事予定 |              |
|-----|----------|----------------|-------------|--------------|
| 8月  |          |                | 13~16日      | お盆           |
|     | 19日      | 婦人会例会          |             |              |
|     | 20日      | 夏の子どものつどい      |             |              |
| 9月  | 4日       | 壮年会例会          | 10日         | 第6期連研(6)重恩寺  |
|     | 16日      | 婦人会例会          | 18日         | 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 |
|     |          |                | 20~26日      | 秋彼岸          |
| 10月 | 10~12日   | 親鸞聖人大遠忌団体参拝    | 3日          | 若宮苑ビハーラ      |
|     | 17日      | 婦人会例会          |             |              |
|     | 22日      | 子どものつどい・どろだんご  |             |              |
|     | 26~27日   | 弘教寺ゴ㊦㊦会(伊香保一泊) |             |              |
| 11月 | 8日       | 婦人会創立40周年記念行事  |             |              |
|     |          |                | 14~16日      | 築地別院報恩講      |